

「姦淫の女」

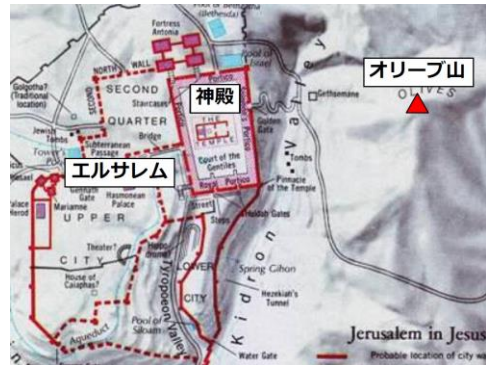
ヨハネの福音書 8:1~11

1. オリーブ山

8:1 イエスはオリーブ山に行かれた。

8:2 そして、朝早く、イエスはもう一度宮に入られた。民衆はみな、みもとに寄って来た。イエスはすわって、彼らに教え始められた。

宮で教えておられたイエシュアは、エルサレムの街を出て一旦オリーブ山に行かれます。そしてそのオリーブ山から再びエルサレムに入り、宮に入られます。そして宮において7:37では「立って」叫ばれたのに対し、今度は「すわって」教えられたとあります。「すわる」はヘブル語でヤーシャヴ(בִּישַׁב), 単に座ることではなく「住む、とどまる」ことを意味する言葉です。イエシュアは「もう一度宮に入り」ヤーシャヴされたという出来事の中に、イエシュアの地上再臨が型として表されていると考えられます。そのことをより詳しく預言している箇所がエゼキエル書にあります。



エゼキエル

11:17 それゆえ言え、『神である主はこう仰せられる。わたしはあなたがたを、国々の民のうちから集め、あなたがたが散らされていた国々からあなたがたを連れ戻し、イスラエルの地をあなたがたに与える。』

11:20 それは、彼らがわたしのおきてに従って歩み、わたしの定めを守り行うためである。こうして、彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる…

11:23 …主の栄光はその町の真ん中から上って、町の東にある山の上にとどまった。

この「町の東にある山」とは、エルサレムとオリーブ山を指しています。イエシュアは、ユダヤ人、すなわちイスラエルの民を、散らされた所から集め、新しい霊を注ぎ、ご自分の国である神の国を建て上げられるという、この預言を想起させ、成就させることを示すために町の東にある山、オリーブ山に行かれたのだと考えられます。またオリーブ山について、ゼカリヤ書にはこう記されています。

ゼカリヤ

14:4 その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。オリーブ山は、その真ん中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができる。山の半分は北へ移り、他の半分は南へ移る。

14:5 山々の谷がアツアルにまで達するので、あなたがたは、わたしの山々の谷に逃げよう。ユダの王ウジヤの時、地震を避けて逃げたように、あなたがたは逃げよう。私の神、主が来られる。すべての聖徒たちも主とともに来る

この「オリーブ山から来られる」という行為は、イエシュアは主であるという神宣言、メシア宣言であると考

えられます。この預言では山を真っ二つにされるとありますが、先ほどのイエシュアは人々を「分裂」させました。また「あなたがたは、わたしの山々の谷に逃げよう」とは先ほどのエゼキエルの預言と同様、ご自分のもとに集められることと同じ意味と考えられます。



2. 姦淫

8:3 すると、律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕らえられたひとりの女を連れて来て、真ん中に置いてから、

8:4 イエスに言った。「先生。この女は姦淫の現場でつかまえられたのです。」

イエシュアのもとに「女を連れて来た」とありますが、言い方を変えればイエシュアのもとに「集められた、引き寄せられた」

のです。これもイエシュアのもとに集められる者たちをたとえた、神様のご計画の一部を示唆する一つの型であると考えられます。なぜならこの「姦淫の女」という表現は、旧約聖書において度々登場する、神様から離れ、偶像礼拝の罪を繰り返したイスラエルの民を表す言葉だからです。

エゼキエル

20:30 それゆえ、イスラエルの家に言え。神である主はこう仰せられる。あなたがたは父たちの行いをまねて自分自身を汚し、彼らの忌まわしいものを慕って姦淫を犯している。

ホセア

5:3 わたしはエフライムを知っていた。イスラエルはわたしに隠されていなかった。しかし、エフライムよ、今、あなたは姦淫をし、イスラエルは身を汚してしまった。

6:10 イスラエルの家にわたしは恐るべきことを見た。エフライムは姦淫をし、イスラエルは身を汚している。

9:1 イスラエルよ。国々の民のように喜び楽しむな。あなたは自分の神にそむいて姦淫をし、すべての麦打ち場で受ける姦淫の報酬を愛したからだ。

このように、この姦淫とは、神様以外のものに聞き従う、偶像礼拝を意味する言葉です。その現場で捕えられた女は、イスラエルを指し示していると考えられます。そのような視点で、ここに記されている出来事を見てください。

8:5 モーセは律法の中で、こういう女を石打ちにするように命じています。ところで、あなたは何と言われますか。」

モーセの律法、レビ記にこう記されています。

レビ

20:10 人がもし、他人の妻と姦通するなら、すなわちその隣人の妻と姦通するなら、姦通した男も女も必

ず殺されなければならない。

たしかにモーセの律法によれば姦淫の罪は石打ち、つまり死刑です。しかしこの女を死刑にすることが目的なのではないことが次に記されています。

3. しるしをつける

8:6 彼らはイエスをためしてこう言ったのである。それは、イエスを告発する理由を得るためであった。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に書いておられた。



イエシュアをためすため、つまり敵対し、戦うことが目的なのです。イエシュアに敵対する者とは、サタン、悪魔であり、また神様を信じない、聞き従わない者たちです。彼らの戦う目的とは、神様が選ばれたアブラハムの子孫であるイスラエルの民、ユダヤ人に姦淫、すなわち偶像礼拝の罪を犯させ、アブラハム

の子孫によって全世界を治めるという神様のご計画である神の国、御国の計画を失敗させることにあります。その挑戦に対し、イエシュアは一つの行為を示されます。すなわち「指で地面に書く」という行為です。「書く」と訳されているので何か単語か文章を書いているように思ってしまうがちですが、ここで使われているヘブル語ターヴァー(תָּוַר)は「しるしをつける」という意味で、印鑑を押したり、自分の持ち物に名前を書くような意味で用いられる言葉です。つまりイエシュアは、エルサレムに入り、その宮の地面に、ご自分の指でターヴァー、しるしをつけ、まるでご自分の印鑑を押すように、「これはわたしが選んだ、わたしのものである」という意志を示されたのだと考えられます。またこのターヴァーについて、エゼキエル書にこのような預言があります。

エゼキエル

9:4 主は彼にこう仰せられた。「町の中、エルサレムの中を行き巡り、この町で行われているすべての忌みきらうべきことのために嘆き、悲しんでいる人々の額にしるしをつけよ。」

9:6 年寄りも、若い男も、若い女も、子どもも、女たちも殺して滅ぼせ。しかし、あのしるしのついた者にはだれにも近づいてはならない。まずわたしの聖所から始めよ。」そこで、彼らは神殿の前にいた老人たちから始めた。

これに対し、イエシュアはターヴァー「しるしをつける」という行為を人の額ではなく聖所、宮に対してなされました。これは宮、すなわち神様のもとにとどまる者はすべて神様の「しるし」がつけられた者、神様が選ばれた者であるという意味だと考えられます。

8:7 けれども、彼らが問い続けてやめなかったので、イエスは身を起こして言われた。「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」

8:8 そしてイエスは、もう一度身をかがめて、地面に書かれた。

罪のない者、そんな人はいません。しかし重要なのは罪があるかないかではありません。神様のもとにとどま

るかどうかです。もしとどまるならその人は神様に「しるし」を押された者、選ばれた者なのです。そのことを強調するかのように、そしてその「しるし」が変わることのない、絶対的なものであることを示すために、イエシュアは「もう一度…地面に書かれた」ターヴァーされたと考えられます。

8:9 彼らはそれを聞くと、年長者たちから始めて、ひとりひとり出て行き、イエスがひとり残された。女はそのままそこにいた。

先ほどのエゼキエル 9:6 にあった「老人たちから始めた」と預言された通り、年長者たちから始めて、宮にとどまること、すなわち神様のもとにとどまること、しるしを受けることを拒み、出て行きました。しかしあの姦淫の女だけはそこにとどまったのです。姦淫の女にたとえられたイスラエルが、イスラエルだけが神様に選ばれていることを示す型がここに表されていると考えられます。

4. 命令

8:10 イエスは身を起こして、その女に言われた。「婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。あなたを罪に定める者はなかったのですか。」

8:11 彼女は言った。「だれもいません。」そこで、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」

神様にとどまる者を罪に定める者は「だれもいません」。イエシュアも言われます「わたしもあなたを罪に定めない」イエシュアは神様の御心だけを語られる御方ですから、イエシュアのこの言葉は、父なる神様の御心です。そして「決して罪を犯してはなりません」と命じられました。神様の命令とは、私たちのそれとは違い、その命令を受ける対象によって結果が左右されるものではありません。なぜなら創世記 1:2「光よ。あれ。」に始まり、この世界はすべて神様のご命令によって創られたからです。この命令によらないでできたものは一つありません。つまり神様の命令は一つも違わず、すべてそのようになるのです。

エゼキエル

43:7 その方は私に言われた。「人の子よ。ここはわたしの玉座のある所、わたしの足の踏む所、わたしが永遠にイスラエルの子らの中で住む所である。イスラエルの家は、その民もその王たちも、もう二度と、淫行や高き所の王たちの死体で、わたしの聖なる名を汚さない。」

姦淫の女、イスラエルに成就する神様のご計画が、この一連の出来事の中に型として表されていると考えられ



ます。ちなみに、「しるしをつける」ターヴァーというヘブル語を文字で見ると

ターヴ(ת)…しるし、印(x)を象った文字。選び、完成、終わりを意味する文字

ヴァーヴ(ו)…釘、鉤を象った文字。固定、決定を意味する文字

ヘー(ה)…窓を象った文字。見る、生きる(息をする)ことを意味する文字

これら三つの文字の持つ意味を統合すると「変わることのない

神の選び、定められた完成を見よ」となり、神様のイスラエルに対する選びが、神様のご計画の完成と密接に結びついていることが示されていると考えられます。先ほど 8:3 で姦淫の女を「真ん中において」、また 8:11 この女の他に「だれもいません」という言葉もまたイスラエルの選びを示唆する言葉だと考えられます。

